

重力と天文学

マルチスケールで暗躍する宇宙の力

2026年3月8日(日) 13:30 ~ 16:00 開場 13:00

京都産業大学 むすびわざ館 ホール

中学生以上・一般向け

参加費 無料

定員 400名 申込不要

主催 公益社団法人 日本天文学会

共催 京都産業大学

宇宙の様々な天体を支配する重力。

正負の電荷が打ち消し合う電磁気力とは違って斥力がないため、天体という大きなスケールではその構造や一生を決める役割を果たします。

この重力が織りなす美しい天体の姿と、そこに秘められた謎を、宇宙・銀河・恒星のマルチスケールで探検してみませんか？

日本主導の新しいX線天文衛星の成果を交えつつ、日本天文学会員の第一線の研究者たちのご案内します。

講演1 「XRISMが切り拓く躍動する宇宙像」

講師 佐藤 浩介 (京都産業大学・教授)

2023年に打ち上げたX線撮像分光衛星XRISM(クリズム)は、銀河の大集団である銀河団やブラックホールなど、高エネルギー天体でのダイナミックなガスの運動の様子を次々に明らかにしています。XRISM衛星や検出器の紹介とともにXRISMがもたらした新しい宇宙像を紹介します。

講演2 「XRISMで解き明かす超大質量ブラックホールの謎」

講師 上田 佳宏 (京都大学・教授)

ほぼ全ての銀河の中心には超大質量ブラックホールが存在し、それらが母銀河と密接に影響し合い、共に進化してきたことがわかっています。X線観測は、成長しつつあるブラックホール(活動銀河核)の構造を調べるのに最も有効な手段の一つです。本講演では、活動銀河核についてのXRISMの最新成果を紹介します。

講演3 「惑星の重力が明らかにする惑星形成の現場」

講師 野村 英子 (国立天文台・教授)

惑星は、原始惑星系円盤とよばれる、若い星のまわりの円盤状の天体の中で誕生します。最近のALMAなどの大型望遠鏡により、生まれたての惑星の重力によりできたと考えられる円盤内の構造が観測できるようになりました。本講演では、誕生したばかりの惑星系の様子と、そこに存在する物質に関する理論的・観測的研究のフロンティアを紹介します。

会場 京都産業大学 むすびわざ館 ホール



京都市下京区中堂寺命婦町1-10

JR「丹波口」駅 徒歩7分/阪急「大宮」駅 徒歩11分/京福「四条大宮」駅 徒歩11分/市バス「大宮松原」または「五条壬生川」 徒歩5分

むすびわざ館には駐車場がありませんので、公共交通機関をご利用ください。

ホームページ・会場へのリンクはこちら

お問い合わせは asj-public-talk@cc.kyoto-su.ac.jp まで

本講演会はJSPS科研費25HP0005の助成を受けたものです。

